



ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。

(ルカによる福音書16章10節)

He who is faithful in what is least is faithful also in much. (Luke 16:10)



新しい人よ、目覚めよ

古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う
新しい人を身に着け、日々新たにされる。



ーコロナサイの信徒への手紙3章9-10節ー

九州学院チャプレン・副院長 小副川 幸孝

2021年が明けましたが、新型コロナウイルスの感染拡大が急速に広がっていく中で年明けとなりました。これまでの多くのことが制限され、人と人との距離をとることやマスクの着用、手洗いや消毒の習慣がさらにいっそう強く求められています。それらが「新しい生活様式」として奨励されていますが、考えてみるまでもなく、それらは「自己防衛対策」を取るということです。しかし、「自己防衛対策」は、オープンではなく閉鎖的であることが要求されますから、精神的にも大きなストレスを生みます。

聖書も「新しい人間」の姿を語りますが、聖書の「新しい人間」の姿は、それらとは全く異なり、「愛と信頼」に生きる人間を意味しています。ノーベル文学賞を取りました大江健三郎の作品に『新しい人よ、目覚めよ』と題する作品があり、重度の障害をもった子どもが次第に解放されていく姿を描いていますが、そこでのキーワードも「愛と信頼」です。

そこで改めて、このコロナウイルスが蔓延した状態での「新しい人間」の在り方を考えますが、これから必要なことは、コロナウイルスのパンデミックが起こった時に示されたような「新しい生活様式」ではなく、やはり、予防や感染への注意を科学的根拠に基づいて十分払いながらも、自分や周囲を大切にし、未来を神に委ねていくような深い信頼をもって2021年（創立110周年）を歩むことだろうと思います。

九州学院では、ありのままの自分を価値ある尊厳存在として肯定的に受け入れること、目には見えない何か偉大な存在によって、自分が今生かされていることに感謝できること、そして、人を大切にして自分の使命に生きることを、このようなことが繰り返されていくと、今日も九州学院の一日は、生徒一人ひとりの心の成長と豊かな人生を願いながら、聖書を通して示される神の愛のメッセージと祈りによって始まります。



講演会はウェブ会議システムで中継

九州学院では1月19年）として定め、毎年日を学院の創立記念日（1910年同日設立）としてこの時期に創立記念講演会を行っています。本年は1月18日（月）に、開校は1911

に何が書いてあるか」で「聖書には「神さまのとても優しく温かいまなざし」と豊かな人生を歩む道が書いてあるのです」と語られた立山先生は、まともとして「聖書はおもしろい一級品です。九州学院で学ぶ皆さんには聖書を教えるだけでなく、先書がたくさんいらつしやいます。礼拝や授業など聖書に触れる機会に恵まれていることを生かしてください。皆さんがこれからは学びを続けられ、豊かな人生を送ってほしいと願います」と優しく語りかけられました。

今回の講演会は『九州学院創立110周年記念日講演』として実施されました。キリスト教主義学校として歩む九州学院のすべての関係者にとって時宜に合う講演内容でした。

立山先生は「聖書は一級品の書物です」と紹介されました。第1のテーマ「聖書をなぜ読むのか」では、「人間の視点で物事を理解することには限界があります。聖書に書かれていることは「神さまの視点」であり、皆さんにはこの聖書に書かれていることから気づかされ、もつと広い視野で捉えていくことにつながってほしいのです」と語られました。第2のテーマ「聖書

学校創立記念講演会に引き続き、九州学院中学校・高等学校全国優勝表彰式が執り行われました。例年は2月に多くの来賓をお招きして全国優勝祝賀会を開催していますが、今回は新型コロナウイルス感染症状況を踏まえて校内での表彰式のみを実施となりました。表彰式では過去1年間に全国大会優勝の栄冠に輝いた生徒の偉業を称えました。団体で高校自転車競技部と高校剣道部が、個人で高校自転車競技部の松本秀之選手と中山遼太郎選手、陸上競技部の鶴川正也選手、中学生の塚田美都選手（エアロビクス）がそれぞれ全国優勝者として表彰されました。

学校創立記念講演会

日本ルーテル神学校長

立山忠浩先生

聖書は一級品の書物

全国優勝表彰式を実施

高校団体の部優勝

■自転車競技部

2020 JCSPA

ジュニアサイクルス

ポーツ全国大会男子

チーム・スプリント

松本秀之（3年）

中山遼太郎（3年）

前田 大騎（3年）

鶴川 正也（3年）

全国高校選抜「高校生現代」剣道大会

平尾 尚武（3年）

小山 和馬（3年）

鈴木 龍哉（3年）

林 龍次郎（3年）

荒木 京介（3年）

坂本 陸（3年）

森谷 理史（3年）

手塚 智樹（3年）

高校個人の部優勝

■自転車競技部

2020 JCSPA

ジュニアサイクルス

ポーツ全国大会男子

ケイリン

松本秀之（3年）

陸上競技部（駅伝）

男子第71回全国高等学校駅伝競走大会

総合 6位入賞

第1区間賞

鶴川 正也（3年）

剣道部

全国高校選抜「高校生現代」剣道大会

男子団体 優勝

バスケットボール部

第73回全国高等学校バスケットボール選手権大会

3回戦（ベスト16）

チアダンス部

2020 JCSPA

ジュニアサイクルス

ポーツ全国大会男子

スプリント

中山遼太郎（3年）

《高校》冬の全国大会6競技に出場

〜ご声援に感謝申し上げます〜

陸上競技部（駅伝）

男子第71回全国高等学校駅伝競走大会

総合 6位入賞

第1区間賞

鶴川 正也（3年）

剣道部

全国高校選抜「高校生現代」剣道大会

男子団体 優勝

バスケットボール部

第73回全国高等学校バスケットボール選手権大会

3回戦（ベスト16）

チアダンス部

2020 JCSPA

ジュニアサイクルス

ポーツ全国大会男子

中学校個人の部優勝

2020年度全国こどもチャレンジカップオンラインJGP大会チャレンジパフォーマンズ（グループの部）エアロビクス

塚田 美都（3年）

※校外団体出場で優勝



幸せを願って

九州学院 院長 阿部 英樹



幸せでありたい、と誰しもが思います。親は子の幸せを願いますし、私たちは教職員は、生徒たちの幸せを願っています。今年5月、世界経済フォーラム主催ダボス会議が開かれます。世界の指導者と知識人の発言は耳目を惹きますが、今年のテーマは「幸せ中心社会へのグレートリセット」です。ここで使われる「幸せ」は、一般的に用いられる「happiness」ではなく、直訳すると「よく在ること、良い状態」を表す「well-being」です。今の時代は、経済成長を重視した社会から、幸福を重視する持続可能な社会への転換が求められていると言えるでしょう。

幸福学など幸せについての学術研究が、近年盛んになってきました。その中で、「幸せ」は「well-being」がよく使われています。研究を通して蓄積されたエビデンスには、幸せに生きる上でのヒントがあります。人は、心が幸せの状態であれば、利他的になり、創造性が高まり、生産性も高まるということがよく知られています。これには、逆の因果もありますので、幸せは、原因にも結果にもなるというこもわかってきています。人とのつながりを持ち、何事にも感謝する生活は、幸福度を高め、自己肯定感にも好影響を及ぼすという研究成果は、なるほどと思います。また、幸福度の高い人は、そうでない人よりも免疫力が高く、寿命が7〜10年長くなるということを知ると、「健康に気をつける」ように、「幸せに気をつける」という表現が使われる時代になるかもしれないと思います。

教育現場では、新学習指導要領が今春からは中学校で、また22年度からは高校で適用になります。この改革で「貫していることは「主体的・対話的で深い学び」によって「思考力・判断力・表現力」を高めることにあります。主体的に学ぶこと、そして生きること、幸福度に大きく影響しますし、対話によって相互理解を深めることは、より良い人間関係の基礎となります。そして、深く学んで前向きに成長しようとすることは、幸福度を高めることにつながるでしょう。教育の転換の方向は、幸せな人を育てることに向けられているようにです。

九州学院では、ありのままの自分を価値ある尊厳存在として肯定的に受け入れること、目には見えない何か偉大な存在によって、自分が今生かされていることに感謝できること、そして、人を大切にして自分の使命に生きることを、このようなことが繰り返されていくと、今日も九州学院の一日は、生徒一人ひとりの心の成長と豊かな人生を願いながら、聖書を通して示される神の愛のメッセージと祈りによって始まります。

九州学院での学校生活の思い出に… 中学(全体・高校(学年)で親睦行事開催

2020年度は体育祭や九学祭などの全体行事が中止となったことをうけ、教職員は生徒たちの学校生活での思い出づくりができればいい議論を進め、10月15日(木)に高校が各学年で、11月6日(金)に中学校が全体で、親睦行事を開催しました。実施



育友会だより

①各種イベント支援

10月15日(木)の高校学年別親睦会等、11月6日(金)の中学校親睦会、12月22日(火)の生徒会主催行事における経費への補助を行いました。

西門・中庭のクリスマスイルミネーションが、例年通り育友会提供で実施されました。

②受験生応援グッズ

1月16日(土)・17日(日)に実施された大学入学共通テストを受験する高校3年生の激励会が1月15日(金)に行われ、藤井宏昭会長が激励の言葉とともに育友会からの応援グッズを代表生徒に贈呈しました。※中学3年生全員にも別途贈呈しています。

にあたっては感染防止策(記録写真撮影時以外マスク着用等)を徹底しました。育友会の皆さまには多大なご支援をいただきました。

高校3年生は総合体育館と百周年記念体育館でドッジボールを男女別に行い、全員にチーム順位に応じたメダル型オリジナルキーホルダー(育友会提供)が授与されました。

高校2年生と中学生



③高校卒業記念DVD

3月1日(月)に学院を巣立つ高校3年生に、今年も育友会より卒業記念DVD「S73回の軌跡」を贈呈します。3年間の高校生活の思い出が、写真や映像で数多く収められた、生涯楽しめる内容です。

※新型コロナウイルス感染拡大のため、育友会講演会(11月、中高の卒業謝恩会(3月)はやむをえず中止とさせていただきます。



は熊本市動物園で親睦会を行い、クラス写真撮影後は友人と散策等を楽しみ、各自が好む場所を憩いました。

高校1年生は熊本地震からの復旧工事が続けられている熊本城をガイドさんの案内のもと見学するとともに、生徒実行委員が企画した親睦タイム・クイズ大会を開催しました。1〜9組の垣根を越えに御礼申し上げます。

長岡立一郎理事長が新著を刊行 『われ山にむかいて目をあぐ』 『自分史を語る』

長岡立一郎九州学院理事長が12月25日(金)に新著『われ山にむかいて目をあぐ』(自分史を語る)を(角川)に刊行しました。この著書は、これまで長岡理事長が書き綴ってきたものをまとめたもので、第一編「自分史を語る」では、生い立ちから神学生、牧師、理事長としての歩みと活動実績、思いなどが語られています。学院創立11

0周年を迎えるにあたり、この年、ぜひこの一読をお願いします。



「神さまがともにいてくださる」クリスマス行事

①点灯式(11月27日(金))

西門付近にて恒例のクリスマスイルミネーション点灯式を行いました。マスク着用のうえ賛美は声を控えめにして歌いました。藤井育友会会長とみどり幼稚園児代表がスイッチを押すと、西門前と中庭に施されたライトが暖かい光を一齐に点灯しました。参加した生徒、保護者、教職員はキャンドルを手にしてクリスマス喜びを祝うとともに、学院に連なる一人一人の平安を心の中で祈りました。

②礼拝(12月22日(火))

新型コロナウイルス感染症防止のため3号館ホールからウェブ会議システムで各教室へ中継し、ホールには敬愛会(高校宗教部)と宗教委員が集いました。メッセージで小副川チャブレンは、混迷のなかにも歩んできたこの年におけるクリスマス

の意味や、どのような状況にあっても神さまがともにいてくださることなどを、聴衆一同に丁寧に語りました。第2部では事前に行われたみどり幼稚園の



交換留学終了のオウ君が挨拶 九学での出会いと学びに感謝

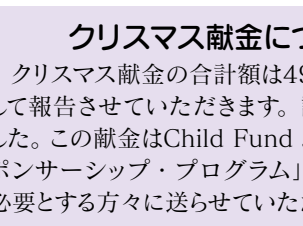
12月23日(水)、姉妹校インマヌエルカレッジ(オーストラリア)からの交換留学生として九州学院での学びを続けてきたオウ・シユウ・タン君が、3号館ホールから高校生と教職員に向けた感謝の挨拶を流暢な日本語で行いました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で制約が多かった留学生活は大変なことも多々あったことでしょうか。



約1年間、九州学院で共に過ごさせていだいたことに感謝いたしますとともに、オウ君のご健勝と今後の人生がますます豊かなものとなりますようにお祈り申し上げます。

クリスマス献金についての報告

クリスマス献金の合計額は492,428円でした。感謝して報告させていただきます。誠にありがとうございます。この献金はChild Fund Japanの活動である「スポンサーシップ・プログラム」などを通して、支援を必要とする方々に送らせていただきます。



九州学院みどり幼稚園 あいさつも3年続けばー

認定こども園九州学院
みどり幼稚園園長 松田正二郎

私は幼稚園の入り口に立つて、毎朝あいさつをしています。



園長になってすぐからですので、早くも3年です。当初の目的は3つ。第一は園児たちにあいさつの習慣を身につけてほしいとの願い。第二は送ってこられる保護者と一言でも会話を交わすため。第三は電車通りに面した本園の重要課題の1つである車の出入り時の

交通事故防止です。あいさつに絞って書きますと効果はてきめん。立ち止まって「おはようございますー」と大きな声であいさつできる子どもがとて多くなりました。もちろん年齢差や個人差もあり、言葉が出ずに「ハイタッチ」だけや「小声で」おはよう」だけの子どももいます。それでもいいんです。笑顔で、立ち止まって、大きな声で、と少しずつバージョンアップしながら年長さんでできるようになって卒園してほしいと願います。あいさつは生活の基本。社会人になって爽やかにあいさつができることは欠かせない要素です。家庭内で「おはよう」や「おやすみなさい」などのあいさつを交わす生活習慣がどれだけでできているのか危惧される昨今ではありますが、登園時のあいさつが家庭でのあいさつに広がり、保護者も含めて笑顔であいさつができる幼稚園になりつつあります。

九中 コーナー

親睦会を実施

11月6日(金)、中学校は熊本市動物園で親睦会を行いました。今年度は新型コロナウイルス感染症に伴い、教育キャンプや体育祭などの主要行事が中止となるなか、中学校生活での思い出になる機会を設けたいとの思いから、3年生の共通テストが終わった週の金曜日に親睦会を開催す



ることになりました。当日は熊本市動物園に集合し、クラス集合写真を撮影した後、グループごとに自由行動時間を持ちました。天候にも恵まれ、生徒たちは乗り物に乗ったり、先生が考えた「動物園クイズ」の答えをウォークラリー形式で探したりしながら、動物園をくまなく散策していました。ウォークラリーではその場に行かないとわからない問題で「動物園を3周した」というグループもありました。限られた時間ではありましたが、生徒たちがクラスの絆を深め、心身ともに少しでもリフレッシュしてくれたならば嬉しく思います。今回の親睦会開催にあたっては育友会の皆さまから生徒用のお茶をプレゼントしていただきました。ありがとうございました。2学期の最後に素敵な時間を過ごしました。

生徒会主催のビンゴで 大いに盛り上がる

12月22日(火)のクリスマス礼拝・祝会の後、中学校生徒会主催のビンゴ大会を実施しました。各クラス広用紙を用意し、数字の代わりに中学校の先生と部活動の名前を自由に記入しました。今年度初のクラス対抗レクリエーションということで、生徒たちはかなり熱が入っていました。ウェーブ会議システムを使って生徒会役員がくじを引く様子を中継して行いましたが、くじを引くたびにクラス中が一喜一憂し、各クラスからは歓声や悲鳴が聞こえるなど大いに盛り上がりました。最後はそれぞれの順位に応じて全クラスに景品が渡されました。企画から運営まで行った生徒会役員の皆さんのおかげで2学期の最後に素敵な時間を過ごしました。

九学同窓会だより

「羽ばたく同窓生特集」

最高出塁率賞を受賞
村上宗隆氏(S70回)

2019年セ・リーグ最優秀新人賞に輝いたヤクルト村上宗隆選手(2018年卒)が、2020年のペナントレースで出塁率・42.7を記録し、最高出塁率賞を受賞しました。

社会人落語日本一ファイナリストに
福山伸司氏(S45回)

本丸亭福介こと福山伸司氏(1993年卒)は、12月12日に大阪で開かれた社会人落語大会で優勝しました。



画期的取組みを開始
福田 稠氏(S18回)



福田病院理事長で
県医師会会長の福田稠



氏(1966年卒)は、望まない妊娠をした可能性がある中高生らが、保険証がなくとも無料・匿名で検査を受けられるようにする独自の取り組みを始めました。コロナ禍での性暴力被害や安易な考えから未成年の思わぬ妊娠の増加が懸念される昨今、早期の相談と支援により悩める女性の救済を目指します。

2021年大河「青天を衝け」に出演
高良健吾氏(S58回)

2月14日(日)に放送が始まるNHK大河ドラマ「青天を衝け」に高良健吾氏(2006年卒)が出演します。主人公「渋沢栄一」(吉沢亮)は「日本資本主義の父」と称され、2024年に発行予定の新一万円札の顔としても注目されています。高

熊本県内初のプロ野球球団「火の国サラマンダーズ」と大分県の大分Bリーグスズの二球団が参加する野球の独立リーグ、「九州独立プロ野球リーグ」(BFK)の代表理事に田中敏弘氏(1988年卒)が就任しました。3月20日の開幕予定の同リーグは両チームのほか、ソフトバンクの3軍、沖縄県のプロ野球球団の琉球ブルーオーシャンズなどの球団と交流戦を含め年間約80試合の公式戦を行い二球団の順位を決めることになって



良氏は渋沢の従兄喜作の役で第一話から登場します。喜作は栄一より2歳上で、幼なじみとして育ち、生涯の相棒となります。カメラオン俳優と言われる高良氏の演技に期待がかかります。

九州独立プロ野球機構代表理事就任
田中敏弘氏(S40回)



熊本県内初のプロ野球球団「火の国サラマンダーズ」と大分県の大分Bリーグスズの二球団が参加する野球の独立リーグ、「九州独立プロ野球リーグ」(BFK)の代表理事に田中敏弘氏(1988年卒)が就任しました。3月20日の開幕予定の同リーグは両チームのほか、ソフトバンクの3軍、沖縄県のプロ野球球団の琉球ブルーオーシャンズなどの球団と交流戦を含め年間約80試合の公式戦を行い二球団の順位を決めることになって

県民文芸賞の小説部門一席に
塩本祐介氏(S36回)



第42回県民文芸賞の小説部に応募した塩本祐介氏(1984年卒)の作品「桂馬と王様・王女様」が見事同部門の一席に選ばれました。同氏は長洲町出身の会社員で、これまでも九州芸術祭文学賞、熊本地区一席、有明新報の新人文芸賞のグラプリなど十数回の受賞歴があり、昨年の県民文芸賞でも二席を受賞するなど素晴らしい活躍をしています。

全日本大学駅伝で区間賞
神林勇太氏(S69回)



11月に愛知三重で開催された第52回全日本大学駅伝対校選手権大会では九州学院出身者が6人エントリーされ、4人が出場しました。2年ぶりの王座奪還をねらった青学大の主将神林勇太選手(2001

県アマ棋王戦で三連覇
森崎盛朗氏(S64回)



10月11日、第56回県アマ棋王戦の決勝リーグで、森崎盛朗氏(2017年卒)が見事県アマ棋王戦で三連覇を果たしました。先天性の難病のために小学生時代から車椅子生活で、現在は対局中も酸素マスクが必要な不自由な身でありながらフアイトを燃やす姿は多くの人に勇気と感動を与えてくれます。さらなる活躍に注目が集まります。

熊本弁と英語のCollaboration
武田修幸氏(S21回)



元英語教師の武田修幸氏(1969年卒)が昨年発行した熊本弁と英語のCollaborationの中から毎回一語が例文つきで紹介され

<支援ご協力をお願い>

熊本の高校生、大学生や教師など約150名からなる、熊本学生災害支援ボランティアチーム(仙波達哉代表(S25回))は、熊本地震発生後に結成され、仮設住宅訪問や炊き出し、子どもたちの学習支援などを行っています。その事業の一環「子どもたちの学習・食育・遊び場支援プロジェクト」の運営をより充実したものとするために、クラウドファンディングを立ちあげ、皆様方にご協力を呼び掛けています。主旨をご理解の上お支えを宜しくお願い致します。

- 資金の使途:被災地での子どもたちの学習・食育・遊び場支援の活動費
- 募集期間:2020年8月29日~2021年3月31日
- 募集金額:1口1,000円からご支援頂けます。
- 連絡先:グローバル・クラウドファンディング ☎096-201-1851 <https://www.global-cf.com/>



全日本選抜柔道で初優勝
米村克麻氏(S66回)



10月31日、千葉ポートアリーナで開催された講道館杯全日本選抜柔道体重別選手権大会の60kg級において、米村克麻氏(2014年卒)が初優勝を挙げた。



「八代よかとこ大使」に就任
町田健一郎氏(S44回)

お笑いタレントのゴリけんこと町田健一郎氏(1992年卒)が「八代よかとこ大使」に任命され、11月19日に八代市役所にて委嘱状交付式が行われました。中村博生八代市長から任命証を渡されたゴリけんは「我が故郷日奈久をはじめ八代の魅力を発信して行きま

11月に愛知三重で開催された第52回全日本大学駅伝対校選手権大会では九州学院出身者が6人エントリーされ、4人が出場しました。2年ぶりの王座奪還をねらった青学大の主将神林勇太選手(2001

「九学同窓会だより」文責・小手川 勲

学友会活動成績
(9月7日～12月31日)

水泳部

熊本県秋季選手権

(10月25日)

▽アカアトムくまもと
▽高校生以上男子

▽50m自由形

2位 森本 勇気(1年)

4位 若杉 拓翔(1年)

▽100m自由形

4位 河津 賢宗(3年)

5位 森本 勇気(1年)

▽200m自由形

3位 河津 賢宗(3年)

4位 須藤 颯(3年)

▽400m自由形

2位 田中 尚汰(2年)

▽100m背泳ぎ

3位 森本 勇気(1年)

4位 堺 幹太郎(1年)

▽200m平泳ぎ

1位 浦中 康生(1年)

2位 堺 幹太郎(1年)

▽100mバタフライ

4位 中川 大夢(1年)

6位 中村 伊吹(2年)

▽200mバタフライ

1位 米田 瑠(3年)

3位 中川 大夢(1年)

4位 田中 尚汰(2年)

6位 中村 伊吹(2年)

▽200m個人メドレー

4位 浦中 康生(1年)

【高校生以上女子】

▽100m自由形

3位 長森 流楓(1年)

▽200m自由形

4位 橋本 希美(1年)

▽400m自由形

3位 橋本 希美(1年)

▽100m背泳ぎ

1位 岡崎 万智(2年)

▽200m背泳ぎ

1位 岡崎 万智(2年)

▽100m平泳ぎ

3位 宮脇 花奈(2年)

▽200m平泳ぎ

2位 宮脇 花奈(2年)

▽50mバタフライ

1位 長森 花楓(3年)

▽100mバタフライ

1位 長森 花楓(3年)

2位 長森 流楓(1年)

▽200mバタフライ

1位 長森 花楓(3年)

2位 長森 流楓(1年)

▽400m個人メドレー

2位 田代 麻有(2年)

▽アカアトムくまもと

▽15才以上男子

▽50m自由形

3位 森本 勇気(1年)

▽100m自由形

2位 河津 賢宗(3年)

4位 森本 勇気(1年)

6位 若杉 拓翔(1年)

▽100m背泳ぎ

2位 森本 勇気(1年)

▽100m平泳ぎ

2位 浦中 康生(1年)

3位 堺 幹太郎(1年)

▽200m平泳ぎ

1位 浦中 康生(1年)

2位 堺 幹太郎(1年)

▽100mバタフライ

6位 中川 大夢(1年)

▽200mバタフライ

1位 米田 瑠(3年)

5位 中川 大夢(1年)

6位 中村 伊吹(2年)

▽200m個人メドレー

2位 米田 瑠(3年)

3位 田中 尚汰(2年)

▽4×50mフリーリレー

1位 若杉 拓翔(1年)

森本 勇気(1年)

中川 大夢(1年)

中川 尚汰(2年)

田中 尚汰(2年)

▽4×50mメドレーリレー

1位 澤村 祐輔(2年)

浦中 康生(1年)

中川 大夢(1年)

森本 勇気(1年)

【15才以上女子】

▽200m自由形

5位 橋本 希美(1年)

▽100m背泳ぎ

1位 岡崎 万智(2年)

▽200m背泳ぎ

1位 岡崎 万智(2年)

▽100m平泳ぎ

1位 宮脇 花奈(2年)

▽200m平泳ぎ

1位 宮脇 花奈(2年)

▽100mバタフライ

1位 長森 流楓(1年)

2位 長森 流楓(1年)

▽200mバタフライ

2位 長森 流楓(1年)

3位 田代 麻有(2年)

▽200m個人メドレー

4位 田代 麻有(2年)

▽4×50mフリーリレー

2位 長森 流楓(1年)

橋本 希美(1年)

岡崎 万智(2年)

田代 麻有(2年)

▽4×50mメドレーリレー

1位 岡崎 万智(2年)

宮脇 花奈(2年)

長森 流楓(1年)

橋本 希美(1年)

陸上競技部

熊本高等学校駅伝競走大会

(10月26日)

▽えがお・健康スタジアム

▽優勝

1区 鶴川 正也(3年)

2区 黒木 陽向(2年)

3区 田島公太郎(3年)

4区 永井 駿(2年)

5区 森 大崎(3年)

6区 竹割 真(2年)

7区 木實 優斗(3年)

全国高校駅伝競走大会

(12月20日)

▽京都西京極総合運動公園

▽6位

1区 鶴川 正也(3年)

(区間賞)

2区 木實 優斗(3年)

3区 田島公太郎(3年)

4区 竹割 真(2年)

5区 森 大崎(3年)

6区 永井 駿(2年)

7区 黒木 陽向(2年)

ハンドボール部

令和2年度第49回九州高等学校ハンドボール選抜大会

兼第44回全国高等学校ハンドボール選抜大会熊本県予選大会

(11月15日)

▽天草市民体育館

▽1位

テニス部

令和2年度熊本県高等学校テニス新人大会

女子シングルス

(9月26日～27日)

▽県民運動公園パークドーム

1位 梅田 萌果(1年)

空手道部

熊本県新人大会(全九州新人大会予選)

(10月10日～11日)

▽文徳高校

▽女子個人形

1位 木原 愛菜(2年)

▽女子個人組手テナー53kg

2位 村井 響(1年)

▽女子団体組手

2位

▽女子個人形

2位 本田 理貴(2年)

男子個人組手テナー61kg

2位 本田 理貴(2年)

3位 柿下 大陸(2年)

男子団体組手

2位

男子団体組手

2位

全九州新人大会兼全国選抜予選会

(11月6日～8日)

▽宮崎ひなた武道館

男子団体組手

3位

男子団体組手

3位

男子個人組手テナー61kg

1位 本田 理貴(2年)

男子個人形

3位 本田 理貴(2年)

女子個人形

3位 本田 理貴(2年)

女子個人組手テナー53kg

1位 村井 響(1年)

女子団体

ベスト8

全九州高等学校自転車競技新人大会

(11月13日～15日)

▽久留米競輪場

久留米競輪場

1KMタイムトライアル

3位 宮本 寛大(2年)

4区 竹割 真(2年)

5区 森 大崎(3年)

6区 永井 駿(2年)

7区 黒木 陽向(2年)

ボクシング部

令和2年度熊本県新人ボクシング競技大会

(10月24～25日11月1日)

▽熊本農業高校ボクシング場

男子フライ級

3位 井上 智陽(2年)

男子バンタム級

3位 高松 克仁(2年)

3位 水町 央雅(2年)

女子ライトフライ級

2位 赤坂 暢花(2年)

テニス部

令和2年度熊本県高等学校テニス新人大会

女子シングルス

(9月26日～27日)

▽県民運動公園パークドーム

1位 梅田 萌果(1年)

1位 木原 愛菜(2年)

▽女子個人組手テナー53kg

2位 村井 響(1年)

▽女子団体組手

2位

▽女子個人形

2位 本田 理貴(2年)

男子個人組手テナー61kg

2位 本田 理貴(2年)

3位 柿下 大陸(2年)

男子団体組手

2位

男子団体組手

2位

全九州新人大会兼全国選抜予選会

(11月6日～8日)

▽宮崎ひなた武道館

男子団体組手

3位

男子団体組手

3位

男子個人組手テナー61kg

1位 本田 理貴(2年)

男子個人形

3位 本田 理貴(2年)

女子個人形

3位 本田 理貴(2年)

女子個人組手テナー53kg

1位 村井 響(1年)

女子団体

ベスト8

全日本高等学校選抜ソフトテニス大会九州地区予選熊本県選考会

(11月7日～8日)

▽エコパーク水俣

女子団体

ベスト8

県下高校柔道大会

(10月17日～18日)

▽山鹿市総合体育館

男子団体

1位

男子団体

1位

男子個人100kg級

1位 田中 愛斗(2年)

男子個人100kg級

1位 松村 大雅(2年)

3位 松村 大雅(2年)

男子個人100kg超級

1位 濱崎 龍真(2年)

2位 濱崎 龍真(2年)

女子個人57kg級

3位 霍本 夕佳(2年)

チアダンス部

ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2020九州予選

(11月9日)

▽出場

1位 木原 愛菜(2年)

▽女子個人組手テナー53kg

2位 村井 響(1年)

▽女子団体組手

2位

▽女子個人形

2位 本田 理貴(2年)

男子個人組手テナー61kg

2位 本田 理貴(2年)

3位 柿下 大陸(2年)

男子団体組手

2位

男子団体組手

2位

全九州新人大会兼全国選抜予選会

(11月6日～8日)

▽宮崎ひなた武道館

男子団体組手

3位

男子団体組手

3位